

2022年度「若者×ツナグバ」活動報告書

団体名: グローカル・アバンセ

活動名: おとぎ話で国際交流

★ 団体紹介 (結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等)

活動趣旨: 「Glocal」

Global&Local ⇒ 国際的な視野を持ち地元で活動
少子高齢化が進むものの在留外国人が増加する故郷で
コミュニティスクールと連携して、国際交流を発展させ
「多文化共生社会」の構築に貢献する。

設立: 2020年6月1日

(NPO) One For All「温故知新」PJからのスピンアウト団体

「グローバル・ジャーニー」

GLOCAL JOURNEY

略称: 「GJ」

高校生中心: NPO全面支援

「グローバル・アバンセ」

GLOCAL AVANCER

略称: 「GA」

大学生中心: 自主性高める



活動メンバー 山口県出身

社会人	2名
大学生	13名



「若者×ツナグバ」 活動経緯

2021年度
実績

成果を
活用

2022年度
活動

・活動テーマ：コロナに負けるな！
オンライン/オフライン国際交流

・活動地域：山口県宇部市吉部小学校校区
広島県府中市栗生小学校校区
在留外国人の皆様・ASEAN諸国高校生

・活動内容：オンライン
留学生との相互文化紹介・国際交流講義
ディベート・日本語トークショー
オフライン 餅つき大会

・活動テーマ：「おとぎ話」で国際交流

・活動地域：山口県宇部市吉部小学校校区
広島県府中市栗生小学校校区
在留外国人の皆様

・活動内容：小学生による日本のおとぎ話の読み聞かせ会
特徴：日本語で出来る国際交流
在留外国人に小学生が先生役を勤める

オンライン/オフライン 融合活動

★ 活動内容（実施日、場所、目的、内容、参加人数等）

栗生小学校

（広島県府中市：昨年から継続）



<基本方針> : オンライン

①学内活動

- ・授業の一環として実施：6年生13名
外国語活動70時間/年 の内数として
GAの活動を5時間/年 程度確保

②学外活動

- ・放課後子供委員会
委員会/保護者/生徒が任意に参加
→今年度校長交代：前任者からの
引継ぎ事項に明記されていた

①学内活動

- ・7月4日(月) 13時～16時
「桃太郎」読み聞かせ会
生徒：13名 学校関係者：18名
留学生：4名 GA：3名
～「桃太郎」の挿絵を留学生と作成
2月完成予定

②学外活動

- ・10月17日～毎週月曜日夜実施
在留外国人の日本語講座

吉部小学校

(山口県宇部市: 昨年から継続)



<基本方針>

①学内活動：オフライン

- ・授業の一環として実施：5・6年生7名
コロナで実施回数と参加人数に制限

②学外活動：オンライン/オフライン

- ・放課後子供委員会
委員会/保護者/生徒が任意に参加
→校長は前年から留任
GA活動への理解高い

①学内活動

- ・9月7日(水) 13時～16時
「こぶとりじいさん」
「おむすびころりん」
生徒：7名 学校関係者：12名
留学生：2名 GA：1名
・年度内に再訪予定(コロナ次第)
～「おとぎ話」の挿絵を留学生と作成
2月完成予定

②学外活動

- ・10月17日～毎週月曜日夜実施
在留外国人の日本語講座

★ 実施に伴う効果（どのような社会貢献ができたか。自らの成長は。）



参加者の声

栗生小学校/吉部小学校

- ・外国の人に日本語を教えるのは初めてだったが、上手に伝えるには、ゆっくり読んだり、区切って読んだり、ジェスチャーを入れると良いことを体験した。
- ・でも日本語（母国語）を「ゆっくり」話すって、難しいことが分かった。
- ・外国にも同じような話があるか尋ねてみたり、日本語独特の言い回しを共に楽しんだ。
- ・留学生の一番印象に残った言葉が笛の音の『ぴーひやらら』だったと聞いて、とても愉快だった。
- ・自分たちが読み聞かせした、おとぎ話の内容が理解できたと聞いて、とても嬉しかった。
- ・奨学金で日本に留学していると聞いて、自分も将来奨学金で留学しようと思った。

在留外国人（留学生・技能実習生）

- ・小学生に日本語を教えてもらうことは予想外だったが、年の離れた子供達との交流は新鮮だった。
- ・読み聞かせは子供でも日本人の普通のスピードだについていけないが、ゆっくり話したりジェスチャーを交えて、気を使ってもらっていることが分かって、有難かった。
- ・日本のおとぎ話には、単に子供向けだけではなく、人生訓が隠されていることを学んだ。
- ・ただ、日本語を覚えるだけでなく、この奥深い意義をゲーム感覚で学べてとても参考になった。

★ 苦勞した点、今後の課題、発展の方向性など

まとめ

反省点

- ・在留外国人の日本語レベルに差があり、初心者、中級者とクラス分けが必要。
- ・レベルに見合った日本語講座の進め方を整備したい。

今後について

- ・2期にわたって貴財団にご支援頂き、コロナ禍でも対応できるオンライン・システムを整備し、オフラインとの融合活動の基盤を整え、国際交流を推進し、参加する国数も32か国に増えた。これまでの活動から得られた経験を活かして、更に国際交流活動を深化させる。
- ・大学生が中心となって始めた活動であるが、就職する者、留学する者とメンバーの環境が多岐に渡って来た。
- ・メンバーの環境が変化しても活動を継続できるように柔軟な活動体制を構築する。
- ・併せて、新規メンバー（高校生）の確保も忘れない。

★ 若者×ツナグバへの提言（改善につながるヒント、要望）

二年間大変お世話になりました。ツナグバで出会う全ての方たちは、熱意を持ち活動されている方たちばかりで大変刺激を受けました。
益々のご発展をお祈りしています。